

南三陸ワイナリー



※1撮影：鳥村鋼

アッセンブルによる部分の集合で建築された、別棟新築のテラス棟/醸造棟/ショップ棟の3棟構成

震災で生まれた仮設プレハブ水産加工場を、プレハブリュース鋼材と地域の素材でアッセンブル



※1



※1



※1

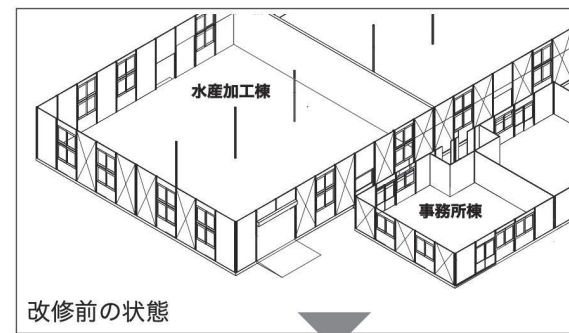
東日本大震災で被災した南三陸町において、津波で流された水産加工場がプレハブ建築として2012年に再建された。月日は流れ、2019年に復興の中でのその役割を終え、震災によって生じた新たな遺構のようなものとして残るかたちとなった。通常であればこのまま解体への道へと向かうが、地域のひとつの歴史として次の時代へ継承することを施主と共に考え、ワイナリーとしてコンバージョンを試みた。プレハブ建築をポジティブに評価することを試みる中で、合理化を目指したモジュールに着目し、そこへ「アッセンブルする」という手法を考案した。

工業化の中で合理化を目指してモジュール化された建築構成を手がかりに、東北エリアで役割を終えて解体されたリユース鋼材(プレハブ構造材)を入手し、それを既存モジュールへ組み込み、外部へ拡張や内部を再構成する材料として使用し、また別棟新築のテラス棟においては主要構造材としての活用を試みた。

同時に、プレハブモジュールを活かすことで既存アルミサッシを内部空間に転用したり、改修部には流通建材を歩留まりよく仕上げることで合理化を図った。壁や開口部などの非構造材は、地域の素材(南三陸杉やブドウ畑で出た廃材等)を工業製品とは対極となるハンドメイド的な手法により、使い手のニーズに合わせて設計した。そして地元の大工と多くのボランティアの手で参加型での制作を行い、既存外壁やサッシ等と組替えた。また別棟新築したテラス棟は、リユース鋼材を構造解析し、入手した材料の種類や応力に応じてブリコラージュ的に建築化し、海の見えるワイナリーの新たなシンボルとなるパビリオンとして構築した。

短期間で消費されるプレハブ建築に対し、使い手側でハンドリング可能な建築の自由度を与えることで、プレハブ建築の風景への定着と、新たな地域性獲得となることを期待する。

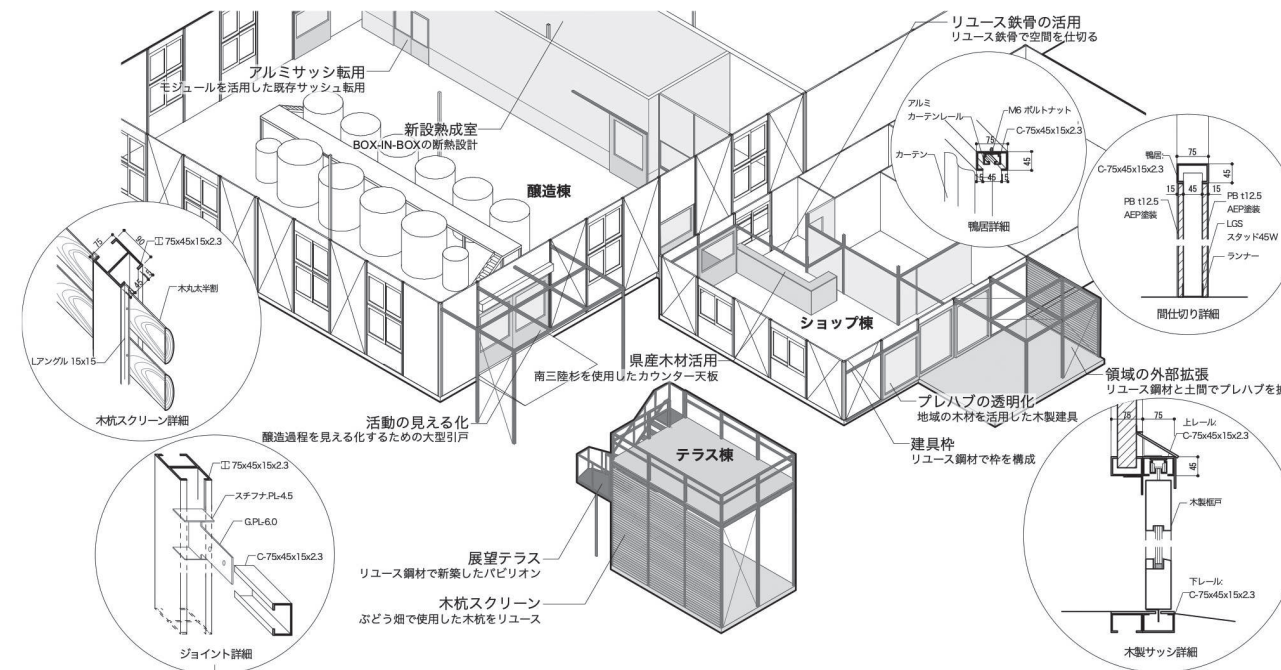
リユース鋼材とディテールにより構成される、アッセンブルされたプレハブ建築



改修前の状態



BEFORE：役目を終えた水産加工場 ※2撮影：一色ヒロタカ



※1



※1



※1

テラス棟ピロティ空間
リユース鋼材での新たな空間価値の検証
GL+4210に設置を求められたテラスを、90×75×2.3の軽量鉄骨による構造解析と、それを接合する新たな接合部ディテールを設計し、リユース鋼材による新たな建築構成のあり方を目指した。

ショップ棟メインエントランス
サッシ等へのリユース鋼材の二次部材転用
主要構造材を二次部材としても活用し、サッシ枠や間仕切鉄骨等、モジュールに載せたアッセンブルを実践した。入手した鋼材の長さに合わせた適材適所での部位設計を実施した。

外部に拡張されるテラス空間
既存空間の拡張と廃材のアッセンブル
一般的に内部空間を構成することが求められるプレハブに対し、屋外へ拡張を試みた。また県産木材や地域の廃材をモジュールに組み込み、土着的な地域性を建築に取り込んだ。

[建築名称] 南三陸ワイナリー
[発注者] 南三陸ワイナリー株式会社
[用途] 工場(ワイン醸造所)、ショップ
[設計管理] studio Irodori 建築設計事務所 一色 ヒロタカ
[構造設計] KATSU STUDIO 勝 邦義
Graph Studio 福島 佳浩

[設備設計] 株式会社前田設備設計事務所
上玉利電気設備設計
[施工] 有限会社 山本セメント、ホソダアーキスタジオ
有限会社イー・エム工業 株式会社小山設備
[設計期間] 2019年6月～2020年6月
[工事期間] 2020年7月～2020年10月

[規模]
敷地面積 1,983.50m²
建築面積 (改修部分 合計 466.15m²)
延床面積 (改修部分 合計 487.15m²)
構造 鉄骨造